

講演者等プロフィール

講演 1

バーバラ・メオン医師 (Dr. Barbara Mahon)

米国疾病管理予防センター 疫学・サーベイランス部門 副主任

医師、公衆衛生学修士。全米規模の腸疾患サーベイランス、リステリア、サルモネラ、志賀毒素産生大腸菌などによる食中毒の疾病負荷や傾向などの疫学研究や、リステリア症、ヒブリオ症、ボツリヌス中毒症などの腸疾患のアウトブレイク調査を担当している。また、高齢者、幼児などの高リスク群に対する予防医学に資する研究に重点を置き、複数の機関と共同で国際的な腸疾患サーベイランスおよび分析等のコンサルテーションや研修を行っている。

講演 2

エーウィン・トッド博士 (Dr. Ewen C.D. Todd)

エーウィン・トッド・コンサルティング 代表
前ミシガン州立大学コミュニケーション・アート・サイエンス学部教授

細菌学博士。ミシガン州立大学国立食品安全及び毒物学センター所長、カナダ保健省健康製品及び食品部門微生物ハザード課課長などを歴任。食品媒介感染症およびリスク評価の国際的権威であり、食品媒介感染症サーベイランス、食品中の腸管出血性大腸菌（O157、志賀毒素）やサルモネラ検出方法の開発、食品媒介感染症の発症数及び損失額の推定、海産物の毒素の究明、食品中の病原体の定量評価の開発などに従事している。

講演 3/意見交換コーディネーター

豊福 肇 食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会専門委員

国立保健医療科学院国際協力研究部上席主任研究官

獣医学博士。

FAO/WHO合同微生物リスクアセスメント専門家会合WHO事務局員、FAO/WHO合同微生物リスクアセスメント専門家会合委員（乳児用調整粉乳中の*Enterobacter sakazakii*、海産物中の病原性 *Vibrio* のリスク評価モデルの国際的使用のための妥当性確認に関する専門家会合、二枚貝中のサルモネラに関する専門家会合、二枚貝中のサルモネラ）に専門家として参加し、これらのリスク評価に参画。

WHO Global Foodborne Infection Disease Network (GFN) 執行委員として、ヒト、食品及び動物の統合したラボベースのサーベイランスの能力強化及び国際的ネットワークの強化のための戦略作成に参画、

日本国Codex食品衛生部会主席代表、Codex食品衛生部会の食品中の微生物規格の設定及び適用のための原則改訂作業の物理的作業部会協同議長を務める。

講演4

ペトラ・ルーバー博士 (Dr. Petra Luber)

ドイツ連邦消費者保護・食品安全庁 科学調整グループ グループ長

医微生物学博士（応用食品微生物学）。リスク分析技術およびリスク評価モデル、欧州の食品安全法令・規約に知見を持ち、複数の量的微生物学リスク評価プロジェクトに従事している。また、元ドイツ食品衛生コーデックス委員会メンバーとして、コーデックス・ガイドラインに基づく微生物学的基準の開発に参画した（保存食品によるリステリア症のコントロールを含む）。FAO/WHO微生物学的リスク評価とリスク管理専門家会議、欧州食品安全機関等の客員専門家であり、志賀毒素産生性大腸菌調査などにも従事している。研究対象は、微生物学的リスク分析、交差汚染、保存食によるリステリア症の管理、カット果物や野菜中の病原菌など。

講演5

トム・ロス博士 (Dr. Tom Ross)

タスマニア大学
オーストラリア農業研究所食品安全センター

予測微生物学博士。オーストラリア食品安全COE応用食品安全教育プログラムマネージャー、オーストラリア食品安全COE副所長などを歴任。FAO/HWO保存食品によるリステリアへの曝露リスク評価、WHO/FAO食品安全リスク評価（微生物への曝露評価）専門家会合を始め、複数の国際機関の専門家会合に参画、FSANZ専門家審問委員も務める。リステリアに関する論文、著書も多く、食品の予測モデリング分野を中心に、数多くの国際学会にて招待講演を行っている。第17回リステリア国際シンポジウム科学プログラム委員会委員を含む予測微生物学および食品安全リスク評価に関する多くの国際的なワークショップに参画している。